

その後

誰も侵すことのできぬ筈の、この海原に
なぜ舟が一艘も浮かんでいないのだろう

海が水でできていることを感じる
今日はそのような日

午前の陽射しに縁取られて
あなたはシルエットになってしまった

今日が幸福であるかどうかなど
もう、どうでもよい

波が穏やかで、静かであること
明日も、あなたと居られること

弓なりの白い砂浜は波の愛撫を受け入れ
輝くような海水を浴びている

とめどなく涙が流れる
あまりに美しい、というそれだけで

あなたは知る由もない
それが、あなた故であることなど

潮騒は余韻を響かせることはなく
口籠るように吸い込まれ、消えてゆく

泡のように生まれては消えてゆく時間
郷愁という記憶の滓

引き千切られた舳い綱が転がっている
浮かんでいたはずの舟

笑顔で振り向いたあなたを
私は、今日という日の総てとして記した

(2012.9.2)